

# 海外では大径木が減少！？

## ～海外の大径木の代表例オールドグロスの今～



太の径級を比較すると「従来比10〜20センチ縮小している」（問屋）ことや、米松高齢樹丸太の出材について「3年程前までは少量ながらも定期的な決まった量が入荷していた。しかし、最近では入荷時期が極めて不透明になっている。海外市場との

日本の森林資源は充実期を迎え、出荷される丸太の大径化が進み、その有効活用が課題となっていることを取り上げてきました。

一方、海外では、大径木の代表的事例とも言えるベイマツなどの高齢樹「オールドグロス」が希少化してきており、出荷されてくる材の径も小さくなってきているそうです。

国産丸太と外国産丸太で逆のことが起こっているように見受けられることは、海外と日本とで森林資源の状況が違うことを示していると言えるのかもしれない。

R7.7.30日刊木材新聞より

高年齢丸太は環境問題や先住民保護政策による伐採や輸出規制の強化の影響で、出材可能な産地が限られている。近年では素材生産会社の採算悪化による事業撤退も重なり出材量が減少している。現在の主な高年齢丸太の産地は多くがカナダBC州内陸やバンクーバー島の原生林で、ごく少量が米国からカナダにかけて広がるカスケード山脈だ。

# 拡大や新分野開拓

## 取扱企業の戦略